

KEY PERSON

人物を読めば、時代が見えてくる。
21世紀を生き抜く秘訣はここに――

日本再生の鍵を握る 各界のキーパーソンたち

平成16年9月 報道ニッポン



一期一会――月並みな言葉ではあるが、
本誌記者は常にこの気持ちを念頭に置いて、日々の業務に臨んでいる。
会話の中でその人が持つ「魅力」を十二分に引き出し、
活字に表すことが記者の使命なのだ。

だが時に、その人が持つ「魅力」に仕事を忘れるほど惹き込まれてしまうことがある。
本企画は、各記者が特に感銘を受けた人物だけにスポットを当て、
独自の視点、独自の切り込みで読者に紹介するコーナーである。



Key Person

変化する仕事に積極的に対応し 企業の発展を陰から支えていく

「仕事は非常に面白く 全く飽きなかったですね」

「[士業]は先生と呼ばれることの多い仕事ですが、本質的には企業のサポーターなんです。ですが私としてはそれを一歩進めて、企業と一緒に事業を進めるコラボレーター、もしくはプロデューサーとしての役割を果たしていきたいと思っています」と語るのは3年前に行政書士事務所を開設したばかりの平賀義教氏。そのためにコンサルティング面をさらに充実させ、企業からの信頼に応えるための体制をしっかり整えているところだという。

そんな平賀氏は、この3年間を振り返って「非常に面白く、飽きない仕事だった」と語る。行政書士は、個人・企業の問題に幅広く対応する仕事であり、その仕事内容は多岐にわたる。しかし氏はそういった仕事の変化を楽しみ、挑戦心を忘れることなく、常に前向きに仕事に向かっているのだ。きっとそんな人物だからこそ、お客様である企業も安心して仕事を任せることができののだろう。

(対談記事は144～145頁に掲載)

幅広い分野からのサポートで 企業と一緒に発展を続けていく



行政書士
宅地建物取引主任者
一般旅行業務取扱主任者

平賀 義教

Yoshinori Hiraga

【今日までの平賀氏の経緯】

長野県松本市出身。東京の大学進学後地元に戻る。大手・中堅企業の経営企画、経理、システムエンジニア、プロダクトマネージャーを経て、3年前に独立開業。「行政書士 平賀事務所」を開業した。

3年前に開業した「行政書士 平賀事務所」。仕事の幅が非常に広い行政書士の業務の中で、企業を対象とした諸手続きの代理を中心に事業を展開している。同所の平賀所長は独立前に様々な仕事で経験を積んできた人物であり、その経験も生かしつつ確かな仕事を納め続けている。本日はそんな平賀氏を俳優の岡本富士太氏が訪問。

岡本 行政書士という仕事はどういったものなのでしょうか？

平賀 たとえば税務に携わる税理士や登記に携わる司法書士などと比べて、行政書士はいわゆる「土業」の中でも非常に業務の幅が広いんですよ。

一言でまとめるならば「市民の暮らしの諸問題の解決や企業の発展に直結する手続きを行なう仕事」と言えますが、その内容は多岐にわたっておりそれぞれの行政書士がさまざまな分野に特化した事業を行なっています。

岡本 その仕事内容も時代とともに変化しているのでしょうか。

平賀 ええ。例えばしばらく前はビザやNPOといったものが新たな仕事として注目されていましたが、いまでは既存の分野の一つとして定着しています。現在日本には約1,800件の法律があるとされていますが、新しい法律が施行されたり、規制が強まったりすると何かしらの手続

きが必要となるわけで、そこから行政書士の仕事が発生する。一つの仕事（社会の枠組み）が時代の流れに合わなくなってきたり、また別の分野（時代の要請）を開拓できるのが行政書士の強みと言えますね。ただし例えば税理士のように一度顧客が決定すれば、顧客の定型業務を受託して安定収入を得られるということが難しいのが行政書士業のウィークポイントと言えます。

岡本 なるほど。ではこちらでは主にどのような業務を行っているのでしょうか。

平賀 私どもが行っているビジネスは主に企業を対象とした手続き全般です。例えば新しく起業を考える方の法人設立、事業計画立案といった事業のスタート段階に携わったり、新たな事業展開に必要な行政手続きやコンプライアンス面の整備といった仕事を行っており、その内容は毎回変わってきます。いずれにせよ、お客様である企業さんの事業に専門家と

SPECIAL INTERVIEWS



Total Business Solution

行政書士 平賀事務所

長野県松本市本庄 2-3-12 山田ビル 3F TEL 0263-32-3383

E-mail: gennai@sea.plala.or.jp URL: <http://www9.plala.or.jp/gennai/OfficeHiraga>



して参画し、企業の発展を手伝うことで私どもも一緒に成長していくというwin-win型のビジネスと言えます。

岡本 独立から3年ほどが経つそうですが、これまでを振り返っていかがですか。
平賀 白紙とは言わないもののゼロに近い状態から始めることも多いので、仕事がとても面白く全く飽きないですね。いわゆるルーチンジョブがこの仕事ではほとんどないんですよ。特に今関心があるのが医療・福祉、環境、旅行関連の仕事でして、マーケティングから施設設置、運営に係る計画をコンピュータに落とし込んでシミュレーションし、アドバイス差し上げるということもしているんですよ。

岡本 なるほど。しかし、このお仕事は人と人との関係で成り立つ仕事ですから、スタンスも重要になってくるでしょう。その点については？

平賀 実務そのものは大方デジタル化できますので、一度基本方針が決定すれば進行は早いのですが、お客様との信頼関係はアナログの世界。岡本さんの趣味とお聞きしている柔道や釣りなどにも通じていることですが、やはり開合いが重要ですね。そしてお客様の考えの先を予測してあげることも大切。お客様は悩みを持ってこられるわけですが、その本意をうまく聞き出し悩みの解決方法に選択肢をつけてあげることが大切になっていくんですよ。とは言え、私自身完璧とは言えないので、まだまだ勉強が必要だと思っています。

岡本 でもお話を伺っていると、平賀所長は非常に親しみ深い感じがします。こうした雰囲気だとお客様もずいぶん話しやすいでしょうね。

平賀 ありがとうございます。私が嫌いなのは「先生」と呼ばれることなんです。私たち「士業」というのは、お客様の上に立つものではなく、基本的にサポ-

ーターにすぎないのですから。

岡本 独立して非常に充実した時間を過ごしておられるようですね。

平賀 ええ。サラリーマンをしているとどうしても世界が狭くなってしまいますが、この仕事をしているとあらゆる方面に人脈ができてさまざまな人と触れあえますからね。長い目で見たときに、私の人生にとっての確かなプラスになっていると思います。

岡本 それでは最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

平賀 先ほど「士業」は基本的にサポーターであるという話をしましたが、私はそれを一歩進めてプロデューサーとしての役割を果たしていきたいと思っています。そのため今後は経営コンサルティングに主力を置きたいですね。

岡本 さらに事務所拡大も？

平賀 現状では「私」を信頼して仕事を任せて下さるお客様が多いですから、やみくもな拡大は考えていません。ですがより多くの方に上質のサービスを提供するためにも、私の考える仕事の方向性がビジネスモデルとして優秀なスタッフに伝承できる段階に至れば、積極的に事業拡大します。

岡本 是非頑張ってください。

(2005年6月取材)

今までさまざまな「士業」に携わる方にインタビューしてきましたが、「士業」を1つの生き方として考える先生が多い中、平賀所長は珍しいことに、ご自分の仕事を「ビジネス」ととらえておられました。しかもそれは、お客様である企業に参画することによって双方に利益をもたらすwin-win型のビジネスであり、近年になって発展してきた考え方です。そういった意味で所長は新しいタイプの行政書士と言えるかもしれませんね。所長の今後ますますのご活躍を期待しています。

行政書士の仕事

▼対談中でも語られている通り、行政書士の仕事は非常に幅広いものであり、「行政書士 平賀事務所」のホームページでは「人生で生じる大方の出来事は、行政書士にまかせればこと足る」という言葉が引用されているほどである。では、その行政書士とは実際にどのような仕事を行っているのだろうか。

▼行政書士の仕事を列挙すると「官公署に提出する書類の作成」、「権利義務に関する書類の作成」、「事実証明に関する書類（実地調査に基づく図面類を含む）の作成」、「官公署に提出する書類の手続き代理」、「契約その他に関する書類を代理人として作成」、「上記書類の作成について相談に応じること」となる。一言で言うなら、個人・企業が困ったときに、コンサルティングと書類作成の専門家として幅広い分野でサポートしてくれるのが行政書士という存在なのである。

▼それだけ幅広い業務を手掛けているだけに、行政書士それぞれには得意分野があり、例えば同事務所では主に企業に対する行政手続き全般を主業務にしているのだという。しかしどの事務所でも変わらないのは「お客様に対して上質のサービスを提供し、社会に貢献していきたい」という気持ち。行政書士たちはそんな思いを胸に、今日も人々のために働いている。



岡本 富士太